

資料 2

新医療センター「市民の意見を聴く会」でいただいた意見とその対応方針

令和5年12月15日 健康子ども部新医療センター建設準備室

- 注意 1 この資料は、令和5年11月8日及び11日開催の「市民の意見を聴く会」でいただいた意見とそれに対する市の対応方針をお示しするものです。
- 2 各意見の冒頭に「8日会場」又は「11日会場」とあるのは各開催日の会場での発言で、「メール等」とあるのは終了後にメールやFAXでいただいた意見です。
- 3 この資料には、意見のみを掲載し、会場で出された質問については省略しています。※メール等で出されたものは、質問も含めて掲載しています。
- 4 同一人による1回の発言であっても、それが複数の要素を含む意見であったときは、当該意見を分割のうえ、該当する分類の欄に掲載しています。

【周産期医療に関する意見】

No.	意見	市の対応方針
1	【新医療センターに分娩機能を望む意見】 8日会場 新医療センターに分娩施設がないことには医師を呼び込むこともできず、市民として安心できない。産科の医師が来た時に備え、当初から分娩に対応できる施設を作してほしい。 11日会場 少子化と人口減はセットで考えなければいけない問題であり、産科があるかどうかというのが選ぶ際の大きな判断基準となる。あらゆる手段を検討し何とかするのが行政ではないか。 メール等 産婦人科の開業医の誘致を考えてほしい。 メール等 将来の分娩受け入れを前提に助産師の採用を増やして分娩対策チームを作してほしい。 メール等 助産師を集めて院内助産所を開設してほしい。 メール等 新医療センターは「水沢病院の建替えではない」とのことだが、市民が望んでいるのは、水沢病院機能の充実と産科の設置ではないか。(No.7にも重複記載)	県内4つの周産期医療圏域のうち、当市は岩手中部・胆江・両磐圏域に属し、同圏域には3つの地域周産期母子医療センター（県立中部病院、北上済生会病院、県立磐井病院）が設置され、広域的な医療体制は確保されているものの、市内において分娩できる施設はありません。 このような状況のもと、市内での分娩を望む声が多数あることは承知しており、この間、専門家からの意見も聞きながら対応を検討してまいりました。 その結果、新医療センターに分娩機能を設けることは、次の理由により、極めて困難であると判断しております。 (1) 新医療センターで分娩を扱うためには、複数の産科医（最低でも3人）のほか小児科医、麻酔科医が必須であり、これを市単独で確保することは非現実的と言わざるを得ないこと。 (2) 24時間365日の対応が必要で、かつ、訴訟リスクの高い分娩を産科医1人で扱うためには、近隣施設のバックアップ体制が必須であり、それがいない環境での招へいは極めて困難であること。なお、仮に医師が1人来たとしても、安心安全なお産が確保できるわけではないこと。（助産院も同様） 市としては、遠方で産む不安や負担感の解消を図ることこそ現実的対応であると考え、妊産婦支援サービスの一層の充実を図るとともに、新医療センターを拠点とした健診体制や産後ケアの強化などを検討してまいります。

No.	意見	市の対応方針
2	【産科医の確保策に関する意見】 メール等 10年後の産科設置を目標に、産婦人科のなり手を5名程度大学生及び高校生から募り学費を負担するなどしない限り産婦人科の設置は難しいのではないかと。 メール等 医師確保のための「ふるさと納税」を医師報酬の「倍額支給」に活用してはどうか。	No.1の対応方針のとおり、産科医の招へいは極めて困難であり、仮に医師が1人来たとしても、安心安全なお産が確保できるわけではありません。 市としては、遠方で産む不安や負担感の解消を図ることこそ現実的対応であると考え、妊産婦支援サービスの一層の充実を図るとともに、新医療センターを拠点とした健診体制や産後ケアの強化などを検討してまいります。
3	【産科医確保に向け国へ要望すべきとの意見】 11日会場 医師確保が厳しい状況は理解したが、国へ要望を出すべき。最新の議会だよりにより子育て環境について市に望むことのひとつとして、産科の設置と載っていた。こうした妊産婦の意見が届いていないのではないかと。	周産期医療を含む地域医療の確保については、これまでも様々な機会を通じて国に要望してまいりました。今後も引き続き要望してまいります。
4	【県周産期医療体制整備計画に市も関わるべきとの意見】 メール等 来年度改訂される県周産期医療体制整備計画を含む「岩手県保健医療計画」に出来るだけ市も関わり、新医療センター整備基本計画に反映させるべき。	令和6年度からの次期岩手県保健医療計画については、現在県で策定作業を進めております。市としても、述べるべき意見を述べ、その内容を基本計画に反映させてまいります。
5	【妊産婦の救急搬送体制に関する意見】 8日会場 救急隊員が妊産婦の緊急時の対応（分娩の手伝い）を行うのは賛同し兼ねる。助産師が救急車に同乗すればいいのではないかと。 メール等 産婦人科の医師を配置するまでの間、新医療センターに救急ワークステーションを設置し、救急車を常備し助産師や同乗させるか、医師同乗のドクターカーで対応するようなシステムを構築するのはどうか。（仙台ワークステーションを参考に）救急出動がない救急救命士は生涯研修をする。このようなシステムを構築することで市民は少しでも安心することができるのではないかと。	救急車には必ず救急隊員が同乗しますので、妊婦や新生児特有の救急救命等の緊急対応のためには、研修の受講など救急隊員の育成は必要と考えます。 救急車への助産師の同乗については、同乗させるために生じる時間的ロスはどうやって解消するか、搬送される妊婦の医療情報を助産師がどうやって取得するかなど課題は多いですが、助産師による妊産婦検診サポートのあり方とあわせ、今後その可能性を検討してまいります。

No.	意見	市の対応方針
6	【その他子育て支援サービスの充実に関する意見】 11日会場 (人口対策や都市間競争という観点において) 明石市のように、最小の財政負担で解決できることは必ずやるべき。近隣の自治体に負ける。子育て支援を強化する方が医師確保よりも簡単ではないか。やれることをやって人口増を狙うべき。	ご指摘のとおり、人口対策のためにも子育て支援の強化は重要だと考えております。これまでも県内唯一の宿泊型産後ケア事業の実施など、妊産婦や子育ての支援策を充実させてきており、今後も積極的に取り組んでまいります。

【病床規模、医療機能等に関する意見】

No.	意見	市の対応方針
7	【病床数80床では少ないとする意見】 8日会場 80床の病床規模では、市立病院の役割である市民の命を守ることができる病床数なのか不安。(同様の意見多数あり) メール等 新医療センターは「水沢病院の建替えではない」とのことだが、市民が望んでいるのは、水沢病院機能の充実と産科の設置ではないか。(以上、No.1にも重複記載) また、これまで水沢病院は小児医療と整形外科を中心に市民の医療ニーズに応える医療提供を行うということではなかったか。一般病床20床で小児科、整形外科の充実は可能なのか。また、現在水沢病院に勤務している医師はどうなるのか。医師にとって魅力ある病院の診療科の設置と規模が必要ではないか。 さらに、病院経営の観点では200床以上ないと採算が取れないとの話を聞く。病床規模80床では採算面からも問題があるのではないかな。 若者をはじめ多くの住民が住み続けられる奥州市をつくるためには医療の充実は欠かせない。県議会等で県立病院の統廃合が議論され、開業医の診療所が無床化されている今日、市民の命と健康を守る今後の市立医療施設のあり方について、慎重な対応を望む。	胆江医療圏の医療需要は今後減少していくと予測されており。現在の病床数のままでは全体で過剰となる見込みです。 また、現在の総合水沢病院の稼働病床数(感染症病床を除く。)は95床(休床50床)で、かつ、その病床稼働率にも余裕がある状況です。 以上のことから、検討のベースとなる病床数を80床と設定したのですが、今後は、これを基本としつつ、今回いただいた意見を参考としながら、診療科の構成や経営的な観点により適正な規模を検討し、新医療センター整備基本計画において、最終的な病床数を決定します。
8	【病床規模の判断に必要な情報を示すべきとの意見】 8日会場 病床規模は、適正数がわからないため判断しかねる。もっと具体的なたたき台を市民に分かるように説明してほしい。	病床規模については、今後、診療科の構成や経営的な観点により適正な規模を検討します。その過程において、より詳細なデータを市民にも提示してまいります。

No.	意見	市の対応方針
9	【県立病院との役割分担や連携に関する意見】 8日会場 現在、胆江医療圏における救急患者は胆沢病院が9割近くを受入れている。新医療センター開所後の救急について胆沢病院に集約とあるが、軽症者があまりにも多く重症者を救命できていないのが現状。重症者を確実に救えるよう重症者は胆沢病院へ、軽症者に関しては新医療センターに分散させることも必要ではないか。（同様の意見3件（8日会場、11日会場、メール等各1件）） メール等 県立病院（胆沢、江刺）とのネットワーク化を進めるべき。医療資源の利活用により市民サービスの拡充につながる。	持続可能な地域医療を確立するためには、医療機関の間での役割分担とその連携の強化が重要となります。今後、頂戴したご意見の趣旨を踏まえ、県立病院との必要な調整を図ってまいります。 なお、救急医療に関しては、引き続き二次救急医療機関として救急患者の受入に努める方針とします。
10	【医師確保に関する意見】 8日会場 水沢高校卒業の医師の動向を把握し、機会を捉えコンタクトを取り続ける中で人脈を広げていくということが必要ではないか。 11日会場 医者が集まる病院の条件とは何か。大学からの派遣であるならば、新医療センター整備について大学側の意思を取り入れる必要があるのではないか。 11日会場 医師確保のための奨学金の成果を市民に示し課題等を洗い出すことが必要。医師確保ができないのであれば新病院を検討するのもナンセンス。（実効性のある医師確保のためには）他と違ったことを考えないといけない。	医師確保に関しては、関連大学医局（東北大、岩手医大、東北医科薬科大など）への働きかけ強化、医師奨学生の義務履行の推進などの取組をしており、今後も、頂戴したご意見を参考としつつ、実効性のある取組を進めてまいります。

【整備場所に関する意見】

No.	意見	市の対応方針
11	【より具体的な資料を示すべきとの意見】 8日会場 陸上競技場のどこにどのようなものを整備使用としているのか具体的な案を示してほしい。陸上競技場の面積や駐車場の詳しい原案を。具体的なイメージがわくような資料でないと意見が出せない。	施設整備規模の詳細については、診療科や病床規模の詳細とともに、整備基本計画の策定作業の中で検討してまいります。 施設整備する敷地の利用イメージ図についても、それら詳細がまとめ次第、お示しいたします。

No.	意見	市の対応方針
12	【水沢公園以外の場所に整備すべきとの意見】 11日会場 メイプルは多額の維持費がかかっている。いまのうちに取り壊しその跡地に新医療センターを整備してはどうか。水沢病院を水沢のシンボルにしたらどうか？ 11日会場 奥州市は公共施設を狭いところ（中心部）に建てがち。産科を増築するにしても簡単にはできないのではないかな。水沢公園のような環境のいいところに建てるのはどうかと思う。せっきくのいい環境を壊すのか。アクセスを考えると北の玄関口であるスマートIC周辺に6町歩程の土地がある。胆沢病院が7町歩。将来的を見据えて大きな土地を確保した方がいいのではないかな。もっとスマートICが活用した方がいい。水沢公園に整備するとなると重機の出入り等で周辺道路の混雑が心配である。	施設整備場所については、整備規模等とともに、整備基本計画の策定作業の中で検討してまいります。 頂戴したご意見は、その際の参考とさせていただきます。

【その他の意見】

No.	意見	市の対応方針
13	【救急搬送に関する意見】 8日会場 救急車のボディが大きく細い道は侵入できず困った経験がある。せめてボディを小さくして、道幅が狭い道路にも対応できるような救急体制をつくってほしい。もしくは、大小2台の救急車による連携プレーで対応することも検討してほしい。	今回頂戴した意見につきましては、奥州金ケ崎行政事務組合（消防本部）など関係機関とも情報共有し、今後のより安心な救急搬送体制検討の際の参考とさせていただきます。
14	【意見を聴く会のあり方に関する質問・意見】 メール等 当日は職員が誠心誠意説明し、質問に回答していたが、設置者である市長や病院事業管理者が同席していないことに違和感があった。なぜ出席しなかったのか。また、会場が水沢地区センターのみだったのはなぜか。会場規模からみても広範な市民の意見を聴く考えがあったのか疑問に思った。	今回の「市民の意見を聴く会」は、基本構想の原案作成に当たり、なるべく多くの市民意見を反映させたく開催したものです。 当日は、原案自体がまだ固まっていない段階であり、開催の目的も意見聴取がメインであったことから、担当レベルでの対応となりましたし、会場や回数も最小限となりました。 今回のご意見を参考として、今後も、なるべく広範な市民意見をいただけるよう工夫してまいります。